



# 知床科学委員会 しんぶん

## 河川工作物 アドバイザー会議 No.25



「河川工作物アドバイザー会議」では、災害から生活を守りながらサケ類が遡上できるように、各専門家が行政機関に対して、治山ダム等の改良工事やモニタリング等について科学的視点から助言をしています。しんぶんでは、その活動についての情報をお知らせします。

### 今年度の会議

令和6年7月29～30日に斜里町において第1回会議及び現地検討会を、令和7年1月28日に札幌市において第2回会議を開催しました。

### サケマスに関する 気候変動対応について

知床でも気温、海や川の水温の上昇が確認されています。そして、**知床の重要な自然資源・漁業資源であるカラフトマスの河川遡上量が急速に減っています。**このため、河川工作物アドバイザー会議委員や漁業関係者等との間で情報共有を早急に進め、対応策検討につなげることを確認しました。

### 治山ダム等の改良について

知床半島のルシャ川とイワウベツ川に設置されているダムの改良等について、現地検討会を行いながらより効果的な手法について議論を行いました。

遺産地域外にある羅臼川の5号床止工とその魚道についても、遺産地域につながる重要な場所であることを考慮した改良方法の検討を深めることになりました。

また、サケを狙うヒグマを見ようとする観光客が道路渋滞を引き起こしたり、漁業施設への関係者の出入りを阻害したりすることについて、科学委員会でもさらに話し合う必要性が確認されました。

ルシャ川河床路の現地検討



イワウベツ川7号ダムの現地検討



イワウベツ川3号ダムの現地検討



### 長期モニタリングについて

#### オシヨロコマ等淡水魚類モニタリング

知床半島の42河川における夏の水温測定、16河川での河川水の環境DNA解析、ルシャ・羅臼等8河川での採捕調査等が実施されました。河川の水温上昇が続いており、特に羅臼側で顕著であること、オシヨロコマ生息密度は一部河川で減少傾向にあるが8河川全体としては減少傾向にはないこと、一部の河川では外来種のニジマスが増加する兆しがあること等が事務局から報告されました。



▲採水の様子



▼採捕したオシヨロコマ

#### カラフトマスとサケの稚魚降下数モニタリング

稚魚の降下数は、調査対象3河川（ルシャ、テツパンベツ、ルサ）のうち2河川において調査開始以来最低となったこと、3河川ともにカラフトマスの産卵床がほとんどなかったこと等が事務局及び知床財団から報告されました。これを踏まえ、地球規模での気候変動が知床に及んできた、**資源維持のために皆で議論することが必要**、沿岸で行われている遊漁の規制も検討課題といった意見が交わされました。

#### ▼稚魚降下数調査の様子

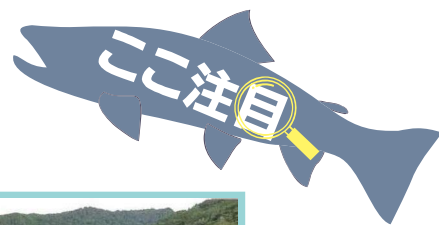


網設置中

※採捕については北海道庁から許可を得て実施しています

# ルジャ川の3つの治山ダム

## 改良工事が完了しました



2024年  
改良工事後



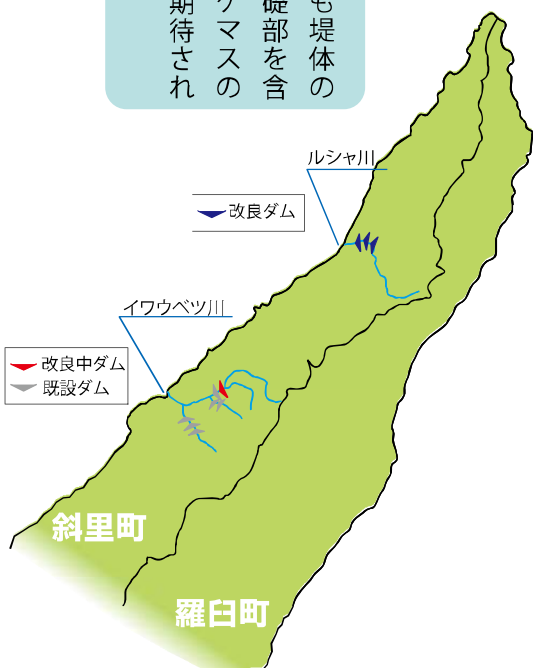
2015年  
改良工事前

北海道オホーツク総合振興局が令和元（2019）年から進めていた3つの治山ダムの改良工事がすべて完了しました。

ルジャ川のダムは、世界自然遺産登録直後の平成18（2006）年に堤体の一部を数十m切り下げる改良工事を行うことでサケマスの遡上を増やすことに成功しました。

しかし、その後下流側の河床低下によりダムの落差が拡大したり、ダムがある区間は産卵に適していない状況が続いていたためユネスコ世界遺産委員会から再改良を求められたりしたことから工事を進めていました。

再改良では、3つのダムとも堤体の中心部を幅40mにわたって基礎部を含めて撤去しました。今後、サケマスの遡上環境や産卵環境の改善が期待されます。



## イワウベツ川にて7基目の 治山ダム改良に着手しました



改良工事前



改良工事後  
(1年目)

林野庁網走南部森林管理署は、令和6年からイワウベツ川において7基目となる治山ダム改良に着手しています。

コンクリートの堤体に2.3m幅切れ込み（スリット）を入れることで魚類の遡上を可能にしようとするもので、川の変化をモニタリングしつつ、毎年高さ1mずつ、3年間かけて切り下げていく予定です。

会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター  
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

### ■ 問合せ先 ■

北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター  
〒099-4355  
斜里町ウトロ東番外地（国設知床野営場内）  
TEL：0152-24-3466

■ 発行：林野庁北海道森林管理局  
■ 制作：株式会社 森林環境リアライズ  
発行日：2025年3月7日

